

ミッドランド社会保険労務士法人
代表 丸地 康仁

働く人が生き生きと活躍できる職場をつくる 労務問題のスペシャリスト。

2019年に施行された「働き方改革」を背景に、長時間労働が当たり前だった従来の働き方からの脱却、少子高齢化に伴う働き手不足への対応など、各企業はあらゆる改革を求められるようになった。さらに、コロナ禍が契機となって急速に進展したデジタル経済が、個人の事情や仕事の内容に応じた柔軟な働き方を可能にしたことで、価値観が多様化。働く人たちの意識は「働き方」から、エンゲージメントや幸福度を重視する「働きがい」へと変化した。一方、企業は自由で多様な働き方を活かしに結びつけるため、適切な人事労務管理の仕組みづくりや、働く人が充実感を得られる職場環境の実現が不可欠に。取り巻く近年の労働環境は、大きな変革期に突入している。加えて、デジタルでは解決できない労務上の人的問題について、丁寧に対処し、解決策を提示してくれる専門家が一層求められている。

「労働者と経営者が寄り添い合っていなければ、必ず企業活動に歪みが生じます。忌憚なく意見し

合える環境づくりは大切ですが、そう簡単ではありません。そんな両者の間に入り、中和剤となるのが私の仕事です。トラブルや悩みを抱えていれば、まずは直接会って話を聞き、納得いくまで一緒に模索。お互いが認め合えるように導きます。アナログですよね(笑)。でも、人と人とのことですから、それ以外に方法はないと思っていますし、それ以外できませんから(笑)。」そう笑顔で話してくれたのは、ミッドランド社会保険労務士法人 代表の丸地康仁さん。そのオシャレでスマートな出で立ちからは想像できない程、とびきり気さくだが、ユーモアを交えて溢れ出る言葉から、仕事に対する熱い気持ちが伝わってくる。

社会保険労務士は、一般企業で働く人たちの採用から退職までの労働・社会保険に関する諸問題や年金相談に応じるなど、業務の内容は多岐にわたる。また、助成金などのコンサルティングや労使・労務問題といった企業の悩みを解決することで、労

働者にとっても、経営者にとっても働きやすい環境づくりを行い、より良い企業へ発展するための一端を担っている。豊橋、豊田に拠点を置くミッドランド社会保険労務士法人は、県内外200以上の企業顧問を務め、職場の安心や会社の未来までを顧客企業と二人三脚で併走。親身になって対応する姿勢に、労使双方から厚い信頼を集める丸地さんだが、これまでの道のりは平坦ではなかったという。

「今だから笑って話せますが、昔は本当に仕事がなく…昼間は土木作業のアルバイトなどしていました。その合間、作業着のまま飛び込みで営業していましたので『ドカジャン労務士』として有名になりました(笑)。開業から3年、2000社ほど回って、やっと一件問い合わせをいただいたんです。電話が掛かってきた時には「僕でいいんですか？」と聞き返したくらい(笑)。認めてくれた人のために命がけで働きましたね。そのお客さんとは今でもお仕事をさせてもらっています。」



▲亡き父、丸地末男氏

かつて自分が救われたように。
誰かを認め、褒めてあげたい。
進むべき先には輝かしい未来があると。

「あなたに出会えてよかった」
そう言ってもらえるように。

丸地 康仁

まるち・やすひとさん プロフィール

1969年、豊橋市生まれ。豊橋市立青陵中学校出身。
豊橋工業高校を卒業後、時代の波にのまれて就職
浪人。3年間、様々なバイトを転々とした後、一念
発起して行政書士を目指す。1991年、行政書士資
格を取得。翌年、社会保険労務士資格取得。1995年、
まるち総合事務所開業。2017年、ミッドランド社
会保険労務士法人 代表就任。現在は、大学生と地
元企業の架け橋となるべく活動中。

ミッドランド社会保険労務士法人

【豊橋オフィス】

豊橋市東脇4丁目21-6 TEL.090-9172-4120

【豊田オフィス】

豊田市三軒町7丁目63-5 TEL.0565-47-0111



褒められたことのない学生時代

勉強は大嫌い。夏休みの宿題なんて、学校が始まってから取り掛かるタイプでした。音楽教室を営みながら、アコーディオン奏者として活動していた父は、名の知れた音楽家。地元には有名な歌手などがやってくる際は、バックバンドとしても活躍していました。一方、家庭内では父の女性問題で大騒ぎ。母に手を引かれ、浮気相手との離別交渉に同行したこともあります。そんな父の背中を見て育ったせいか、興味を持ったのは音楽ではなくファッション。昔からオシャレな洋服が好きでした。高校は勉強をしない人たちの名門校へ入学。授業ではマフラーなんか編んでましたね。

人生を変えてくれた人

自他共に認める社会不適合者で、根暗。高校を卒業後はアルバイトをしながら、その日暮らしの生活をしていました。飲食店で働いていた時、いつもおかわり自由のコーヒー1杯で、何時間も勉強している男性客がいました。会話こそないものの、オーダーストップ間際には、残り少ないその人のカップにコーヒーを注ぐのが私の日課。暫くして、パタリと足が途絶えたときには、少し寂しく、「きっと成すべきことが終わったのだ」と感じていました。

その男性と再会することになったのは公衆浴場。偶然隣で体を流していました。「コーヒーをまめに注いでくれた子だよな?」。名前はK先生。聞けば、司法書士を目指していたそうで、合格を境に店には来なくなったそうです。迷走していた私は人生相談を持ち掛けました。すると「君は人の気持ちのわかる人だ

から絶対大丈夫だ!」と。その言葉に救われました。認めてもらえた。本当に嬉しかった。「君は人と関わる士業に向いているよ」と。夢も希望も、目標もなかった自分に光が差した気がしました。その人に少しでも近づきたくて、行政書士の参考書を買って勉強を始めたのはその翌日です。

社労士という仕事

「社労士は人と人とが話をして、良い方向に導く仕事」そうK先生から教えてもらいました。膝を突き合わせてしっかりと話せば、互いに分かり合えると信じていますが、時に、インターネットを介して様々な情報を取得し、自分で取捨選択できるようになった昨今では、そのような考え方は時代遅れなのではないかと思う瞬間もあります。しかし、相手を認め、理解すれば、Heart to Heartで伝わるものが必ずあるはずです。労使の立場は違えど、袂を分かるときは互いに新しい気持ちでリスタートできるような環境づくりが、私の使命でもあります。

数年前から、地元企業と大学生を繋ぐ架け橋になろうと決め、中小企業の魅力を学生に伝え、また夢を持った学生には応援してくれる企業を紹介しています。単に就職や雇用だけでなく、互いに耳を傾けることで、労使の意識改革にも繋がると考えています。

社労士人生28年。残りの時間は限られています。これまで沢山のの人に迷惑をかけ「ごめんね」ばかり言うてきましたが、これからは「ありがとう」を伝えたい。また、若い頃の自分と同じように、自信をなくし、困っている人がいれば、直ぐに駆け付け「君は大丈夫だ」と、一人でも多くの方に声をかけてあげたいです。

取材・編集・制作

Blend marketing design

株式会社ブレンド・マーケティングデザイン

豊橋市広小路2丁目1 広小路画廊ビル5F
TEL.0532-57-1508

